

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【93号】2018年1月

東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL: 03-3383-7800

第16期養成講座が開講されています。10月14日から2018年1月27日までの5回連続講座になります。今号は、オープン講座として12月9日(土)に開催した「避難所ワーク +ONE」の報告です。

避難所ワーク +ONE (プラスワン)

『+ONE(プラスワン)』とは、災害対応カードゲーム教材「クロスロード」を参考にしたシミュレーションプログラムです。

発災時の混乱、そして時間経過とともに起こる多様な問題。
避難所での被災者、そして支援者が直面する問題を解決する方法は？

Aの案? Bの案? ...
それよりもっと良い案は?
そのC案を考えるワークです。



プラスワンの目的

- ◆災害時に判断が必要になると思われるさまざまな場面について、災害が起こる前から考えるきっかけをつくる。
- ◆さまざまな人と意見交換を行う中で、多様な意見や考え方、価値観に気づき、新しい選択肢を考える力を養う。



- ①ある事例(お題)に対し、災害をイメージしながら、自分の行動を考えてみます。
- ②限られた情報の中で、直感的に行動(判断)してもらいます。行動(判断)は「A案・B案」で。
- ④その後、「なぜA案なのか」「なぜB案なのか」をグループに分かれてその理由を出し合う。
- ⑤基本的に「お題」に対して、正解はありません。多くの場合、A案の行動(判断)も、B案の行動(判断)もアリなはずです。



今回、オープン講座としてみなさんに呼び掛け参加者を募りました。CO 災ボ会員から4名と、パルシステムの組合員1名の参加があり、養成講座の受講生グループとは別のお題(➡ボランティアニーズの判断)で話し合ってもらいました。



<お題>

避難所リーダーたちは、「ボランティアにトイレ掃除なんかはやってもらったらどうか？」という意見と、「トイレは自分たちが使っているもの。ボランティアさんをお願いすることではないのではないか」という意見に分かれている。

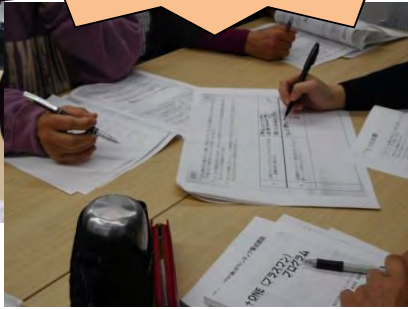
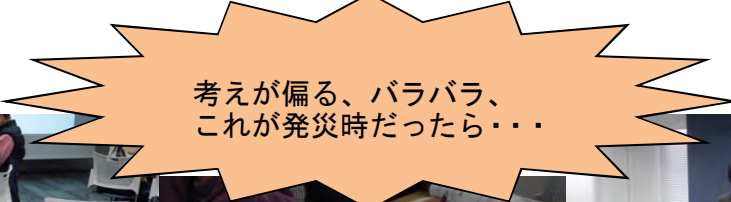
あなたなら、どちらの意見に賛同する？

A案： ボランティアに頼む

一部の避難所に負担がかかっているわけだし、避難所支援をしてもらえるなら、ボランティアにトイレ掃除を頼んだ方が良い

B案： 何とか避難所内の避難者でやりくりをする

ボランティアに頼むことではない。何とか避難所の中でやりくりをして集団生活のルールを守ってもらった方が良い



<ワークシートを使って>

- ① グループでは、まず A案 か B案 かの多数決をとる。
- ② 何故そう考えたかを共有する。
- ③ もっと良いと思われる案を考える。 → C案

そして、起こる前に何をすることが減災につながるかを考える → D案



素晴らしいC案ができたグループは発表してください！！

グループで話し合った結果、考え出したC案の発表

「フラスワン！やってみたい！！」

そう思われた方は、是非地域の集まりや、生協の組合員活動で実施してみてください。C O 災ボ事務局までご連絡いただければ、講師の紹介や、実施の仕方、お題のヒントなどなど、情報提供致します。その他「まち歩き・マップづくり」などなど、防災・減災活動に関してもご連絡ください。一人でも多くの方に、C O 災ボで学んだ知識を伝えることが会員の期待役割の一つです。

<参加者の感想から>

- シミュレーションプログラムは、とても考えさせられました。状況や季節によって違いが次々に出て、災害が起こる前に準備することが何より大切だと思いました。
- 避難所運営は、自治の問題になるというテーマに対して、避難所が我が家だったら…というフレーズ(ワーク)は、一考に値すると思います。
- AかBか、その理由は？当然ながら、自分と正反対の意見に耳を傾けるのも、大変参考になりました。
- まず、色々な意見をお聞きできたことが、大変勉強になりました。これは、防災に限らず多様な意見に耳を傾ける訓練になると思います。日頃からいかに関係性がつけているか、顔の見えるコミュニケーションができていくかすべて防災に限らない地域づくりに必要なことと思いました。

《多くの方の感想》

- ◆ 日頃のコミュニケーションづくりが大切
- ◆ 色々な意見に耳を傾けること
- ◆ 避難所が自分の家だったらと考えると視点が変わる

みなさんの感想から、大切な気づきをたくさん得られたことが何われました。C O 災ボ会員のみなさんと、スキルアップできる機会を増やしていきたいと思ひます。

事務局

今年も行ってきました！

三宅島年末おそうじボランティア 2017



2017年「三宅島年末おそうじボランティア」、初回実施から13年目の開催となりました。東京の生協は、2000年の三宅島雄山の噴火から、支援物資の供給だけでなく、様々な形で災害支援を続けてきました。今年も、東京災害ボランティアネットワークが開催するこのプログラムに構成団体として、コープ災害ボランティアネットワーク会員と会員生協職員に参加を呼び掛けて、初参加者5名を含む17名が参加しました。

日程：①2017年12月15日(金)～12月17日(日) 船中1泊、現地1泊

②2017年12月22日(金)～12月24日(日) 船中1泊、現地1泊

内容：三宅島島内の独居高齢者を中心とした島民の方々のお宅のお掃除と島民との交流

参加者：① 19名(うち生協関係者はCO 災ボ会員 3名含め 10名)

② 15名(うち生協関係者はCO 災ボ会員 3名含め 7名)

コープみらい、パルシステム東京、コープデリ連合会

■ スケジュール

出発日

22:30 東京港竹芝桟橋 出航

1日目

5:00 三宅島港着・仮眠・

8:30 『風の家』集合・朝礼・ミーティング

9:00 訪問宅へ向け出発・お掃除作業・昼食

◆島民と交流

15:30 『風の家』帰着・片付け

解散・夕食・休憩

●●● 交流会

2日目

09:00 みやけじま『風の家』集合

～ 島内視察出発 ～

13:35 三宅島港 出航



>15日出発回は、波が高く船の発着の心配がありました。22日出発回では、波おだやかで心配なくスケジュール通りにすすめることができました。



第1回メンバー・若い生協職員が参加



第2回メンバー・みんな笑顔

おそうじ・交流

各班に分かれ、おそうじをするお宅に出発！！
窓ガラスをふいたり、高い所のほこりを払ったり、
普段なかなか手の回らない部分をきれいにしました。
気分スッキリ！！
その後は、みんなでお弁当を食べながら交流しました。
笑顔一杯の時を過ごしました。



◆高い所も、家の外でも、赤帽をかぶって大活躍です。

「風の家」での交流会

噴火のあった日や帰島した日を振り返り、みんなで
交流しました。
また、参加者一人一人が思いを伝えました。



◆もうすぐ帰る時間です。
みなさん名残惜しくて…



コープ災害ボランティアネットワーク会員のみなさんに、東京
災害ボランティアネットワークの企画に参加していただく機会を
年間何回かご案内させていただいています。

養成講座受講時に身に着けたいろいろな知識や、スキルアップ
講座で学んだ傾聴のこと、そしてなにより被災地で被災者に寄り
添って行うことの大切さを、会員のみなさまに実感していただく
機会と捉えてのご案内です。

力強く実践的なボランティアのイメージに対局するかも知れま
せんが、会員のみなさんには、優しく寄り添うボランティアの大切
さも持ち合わせていただくことが、会則に合った活動になります
ので、まだ、参加されたことのない会員の方々も今後は是非ご参加
ください。 (コープ災害ボランティアネットワーク幹事会)



◆初めてのボランティア、少しドキドキです
が、仲間と一緒になら頑張れます！！



◆みんな笑顔の昼食交流
島のりたっぷり、美味しい
のり弁

<初参加者の感想>

- 窓ガラスがきれいになったことをとても喜んでいただけました。
- 最初から暖かく迎えてくれ、何回も何回もありがとうと言われ、ほんのちょっとしたことでこんなに喜んでもらえて自分も嬉しかった。
- 午前中、サツマイモ堀りをしました。補聴器の調整もしました。長年来ている人(継続しているボランティア)への信頼感がすごいことを肌で感じたので、また、来ようと思った。

<参加者の感想から>

- 愛犬のゲージの掃除、お風呂の中の浴槽の掃除など、ご本人のご希望を訊きながら行いました。ご高齢者が普段できない場所を探し、コミュニケーションを大切に進めることができ、とても良い機会に恵まれました。
- 同じお宅に2回目の訪問で、お元気な顔が見られて嬉しかったです。お話をして自分自身も元気をもらいました。
- 今回もたくさんの元気をいただきました。また、ボランティア交流のむずかしさも感じました。してもらった側の気持ちを汲むことを2回目の今回感じました。